



和音の会主宰 清香さん ジャンルを越えたコラボを通じて 大好きなお箏を追求していきたい

なでしこ力



清香さん

箏（こと）の演奏家で、「和音（いずみ）の会」を主宰し国内外で公演活動を精力的に行う清香（きよか）さん。邦楽は敷居が高い上に、公演機会はほぼ国内に限られ、斬新な取り組みをしづらい状況が長い間続いていた。そんな環境の中、清香さんは、洋楽器とコラボするだけでなく、洋舞、ファッションショー、クラブ音楽など文化的コラボにもチャレンジ、国内外で演奏してきた。現在では海外のジャパンフェスティバル公演にも多数参加している。

清香さんは3歳で箏を始め、13歳で三弦（三味線）の手ほどきを受け、人間国宝の故・宮城喜代子、数江師に師事、内弟子とし修業してNHK邦楽技能者育成会でも学び、宮城会全国コンクールにも入賞した。

23歳からは箏の演奏家として国内外で公演活動を30年以上行ってきた。学生時代は秋篠宮紀子様の手ほどきをした経験もある。現在は宮城流大師範。「原田きよか」として「和音の会」（愛知県岩倉市）を主宰し、多彩な公演活動や後進の指導にもあたる。和洋混成バンド「うだつ」のメンバーとしてCDも発売し公演活動を行うなど、箏に人生を捧げてきた人だ。

清香さんが演奏家として注目されるのは、クラシック音楽やジャズなど多彩なジャンルの音楽とコラボレーションを積極的に行ってきたこと。伝統芸能を柱にした上でのコラボは日本国内だけでなく世界からも着目され、各国の大使館や領事館での迎賓館歓迎会での演奏、海外のテレビ・ラジオ出演を重ね、日本の文化交流の一翼も担っている。

コラボの相手は他に例がない楽器も多い。篠

笛、尺八などの和楽器、ピアノ、フルート、クラリネットなどの洋楽器、加えて西洋民族楽器など。舞踊や舞踏、クラブDJとも行い、箏を介して文化そのものがコラボしているようにも見える。

清香さんの演奏が高く評価されるのは、あくまで箏の古典を軸にしたコラボだということ。コラボの幅が広がるにつれ13絃の箏では限界を感じて、清香さんはオリジナルの17絃（夢箏・ゆめこと）を考案、表現力の幅を広げてきた。演奏活動を夢箏とともに歩んでいきたいと考え、ライブ「清香の夢のこと」を国内外で開催している。

ジャンルが違う音楽同士のコラボレーションは簡単ではない。洋楽器なら五線譜の楽譜があれば、ほぼすべての楽器の演奏が可能だが、和楽器は、楽器ごとだけでなく流派ごとに楽譜が違う。加えて邦楽器の音階は、五線譜上で表現できないものもある。両方の楽器で同じキー音に合わせるのには相互のチューニングを考える必要もある。

清香さんの場合、コラボの際のすべての楽譜